

中村設計新聞

第二十一号



六月十八日(土) 雨
今月の土曜研修は西本願寺伝道院と龍谷ミュージアムの見学に行きました。

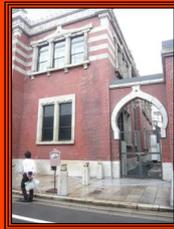
○はじめに



今月の土曜研修は、今年、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の750回大遠忌に合わせ改修された伝道院と記念事業としてオープンされた龍谷ミュージアムの見学に行きました。
伝道院では法要期間中テーマ館として公開中の1階部分と通常は非公開となっている2階部分を今回特別に見学させて頂きました。龍谷ミュージアムでは開催中の『釈尊と親鸞』を見学をし、仏教の歴史を学びました。



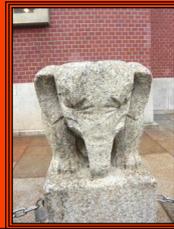
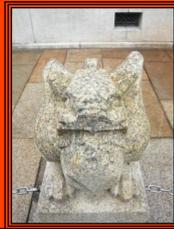
北側外壁



西側入口



正面入口



建物周囲に並ぶ動物のオブジェ

本願寺伝道院を見学して

レポート①



本願寺伝道院は今年3月に約十年間行われていた修復工事が完了しました。建物は伊藤忠太による設計で一九一二年(明治四十五年)に竣工し、現在は京都市の指定有形文化財に指定されています。伝道院は元々、真宗信徒生命保険株式会社の社屋として建てられ、現存する本館の他に「付属屋」「倉庫」などもありました。それ以後、時代の流れと共に所有者も変わり、現在では「本館」のみ残っています。
今回は、一般公開されている1階と住職課程で教学や布教のために使用されている2階を特別に見学させて頂きました。

外観は洋風のレンガ造りとなっていますが、屋根の骨組みを木造にし破風を設け、対称的に軒組を石材で造ったりと色々な材種を使用し、その様式も欧風でもなく、和洋折衷でもない、全く新しい日本建築を造るという伊藤忠太の提唱した『建築進化論』が表現されています。

見学を終え、設計者は、こだわりやしっかりとした考えを持って設計されたのだということをとて強く感じ、大変貴重な体験となりました。

レポート

西村 亮人

レポート②

龍谷ミュージアム

『釈尊と親鸞』を見学して

龍谷ミュージアムは学校法人龍谷大学創立370周年事業の一環として建設された『仏教総合博物館』です。今年親鸞聖人750回大遠忌の年でもあり、堀川通りを挟み本願寺を目の前にした門前町界隈は法要期間中は大変な賑わいを見せています。第一回目の出展として開催されているのが、仏教を開いた釈尊と浄土真宗の宗祖親鸞聖人をテーマにした『釈尊と親鸞』です。

設計者として日頃寺院建築を手がける中、その源流となる仏教の歴史・文化について学ぶ事はとても重要な事であると思います。
建築物としても、大学が運営する博物館としても、さらには本格的な仏教博物館としても、他にはない文化施設であり、本願寺の前にあるという意味も含めて、今後一層京都を面白くする施設になると思えました。

建築物としても、大学が運営する博物館としても、さらには本格的な仏教博物館としても、他にはない文化施設であり、本願寺の前にあるという意味も含めて、今後一層京都を面白くする施設になると思えました。

○まとめ

レポート 井澤 弘隆

今回の見学で、まずは親鸞聖人750回大遠忌の規模の大きさを改めて実感することができました。

伝道院の見学では普段は公開されていない2階を見学でき、貴重な体験ができました。龍谷ミュージアムでは、仏教伝来から浄土真宗の歴史まで幅広くその歴史、知識に触れることができるとも勉強になりました。



ファサード



東出入口



メインホール



正面入口

ゴーヤも夏バテ？



今年梅雨入りが早ければ梅雨明けも早く、長い猛暑日が続いています。そんな中、暑い日差しを遮ってくれるはずのゴーヤも毎日の猛暑にやられてあまり元気がありません。年々暑くなってくる夏の太陽に、さすがのグリーンカーテンも夏バテになっちゃったよです。

夏バテ気味のゴーヤたち

皆様、今年は省エネが重要課題になっていきますが、熱中症にならないよう気をつけてください。



姫路城クイズ 先月の答え

播州(ばんしゅう)皿屋敷
松本城